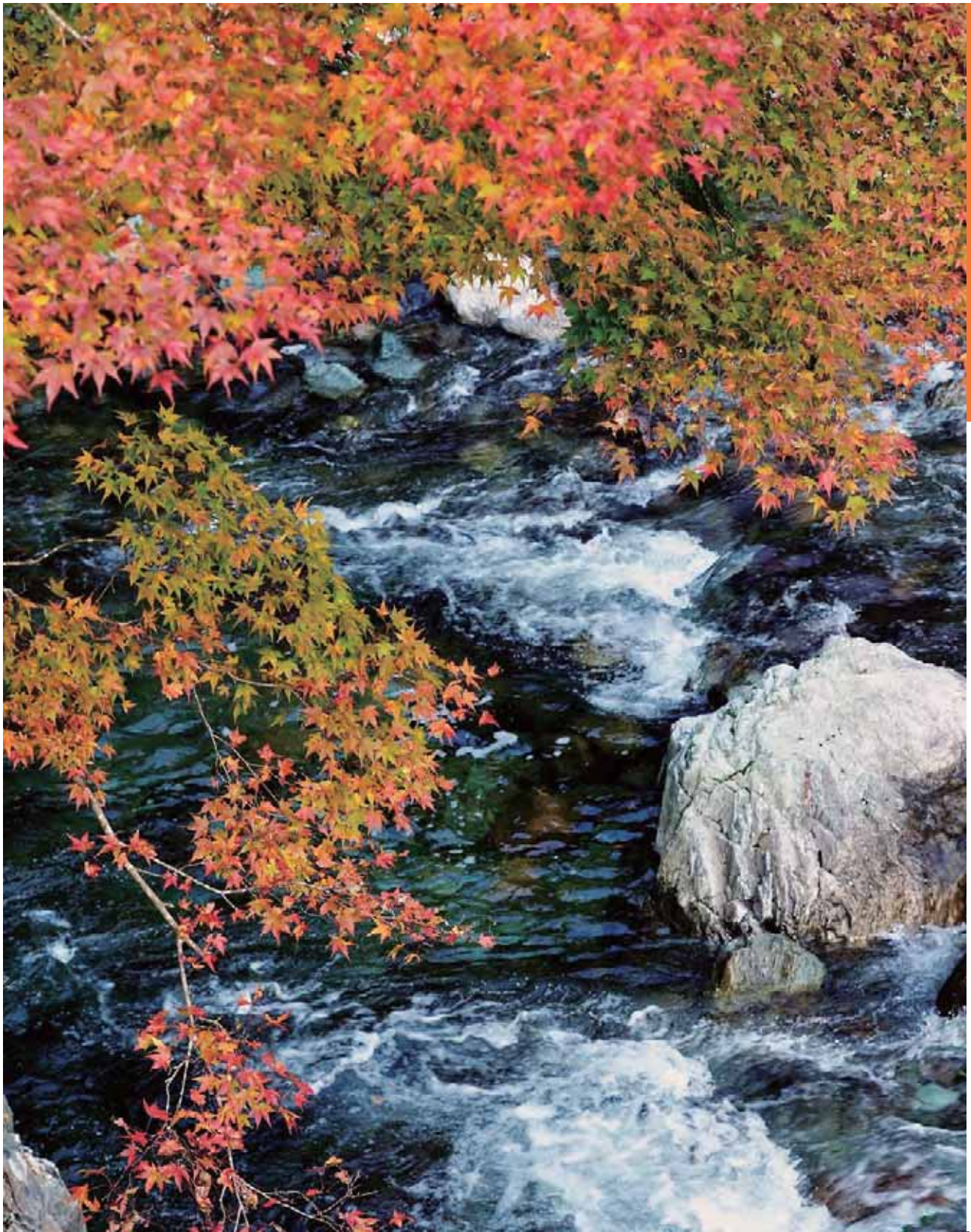
いしづち

ISHIZUCHI

2013.9

No.094

公益社団法人 愛媛県建築士会
http://www.ehime-shikai.com



内子らしくあるために

建築士の日行事報告

中四国ブロック大会高知大会

ISHIZUCHI
Ehimeken kenchikushikai
2013 9
SEPT No.094

CONTENTS

1 寄稿

私のまちづくり② ヘリティジ・マネージャー 岡崎 直司 ……①
内子らしくあるために 内子町 八日市・護国町並保存センター 西岡 真貴 ……③

2 支部報告

建築士の日行事報告
家づくり なんでも無料相談 新居浜支部 ……④
家づくり なんでも無料相談 西条支部 ……⑤
建築巡礼 in まつやまⅤ 松山支部 ……⑥
建築巡礼 in まつやまⅤに参加して 松山支部 和田 崇 ……⑦
建築巡礼 in まつやまⅤに参加して 市民参加者 わたなべすみこ ……⑨
市民と建築士が連携し安全・安心なまちづくり 伊予支部 ……⑩
耐震診断・耐震改修の啓発活動 大洲支部 ……⑪
2013 夢のまち・素敵なまち絵画展 宇和島支部 ……⑫

3 委員会報告

クラボウ北条工場の見学会 文化財・まちづくり委員会委員長 花岡 直樹 ……⑬
クラボウ北条工場見学会 松山支部 石﨑 洋介 ……⑰
宇和島木屋旅館と高野長英居住後見学会について 今治支部 尾越 竜子 ……⑱
青年・女性建築士の集い 中四国ブロック高知大会に参加して 青年委員長 森川 晴喜 ……⑲
女性委員長 田中 明美 ……⑲
新居浜支部 鴻上 八大 ……⑳
新居浜支部 青野 一輝 ……⑳
新居浜支部 和田 卓巳 ……⑳
新居浜支部 宮﨑 秀俊 ……⑳
今治支部 青陽 孝昭 ……⑳
今治支部 加地このみ ……⑳
松山支部 大塚美由紀 ……㉑
松山支部 渡邉 道彦 ……㉑
松山支部 近藤 岳志 ……㉑
松山支部 橋本智恵美 ……㉑
松山支部 横田 彩 ……㉑
松山支部 赤松 慶隆 ……㉑
松山支部 白石 学 ……㉒
松山支部 和田 崇 ……㉒
松山支部 松平 定真 ……㉒
松山支部 山田 宏 ……㉒
八幡浜支部 眞田井良子 ……㉒
西予支部 山内 真一 ……㉒
平成 25 年度 青年総会 報告 青年委員長 森川 晴喜 ……㉔
関東甲信越建築士会ブロック会千葉大会に参加して 今治支部 青陽 孝昭 ……㉕
全国女性建築士連絡協議会【全建女】―参加報告― 松山支部 大塚美由紀 ……㉘
同上 松山支部 橋本智恵美 ……㉘
砥部地区 勉強会に参加して 松山支部 一之瀬佳緒理 ……㉙

4 けんちくの輪

愛媛士会との交流 （一社）神奈川県建築士会 業務執行理事 兼 青年委員長 奈良 直史 ……㉛
私と建築の輪 伊予支部青年部長 大平 将司 ……㉞
私と建築の『評価』 新居浜支部 越智 麻衣 ……㉟

5 ご結婚おめでとう

末永くお幸せに 松山支部 大塚美由紀 ……㊱
石丸絹子さん、岸孝徳さんの結婚式二次会に呼んでいただきました！ 松山支部 近藤 岳志 ……㊲

6 お知らせ

編集後記 情報・広報委員 ……㊳

私のまちづくり②
「少彦名神社参籠殿保存活動について」

ヘリティジ・マネージャー　岡崎　直司

現在、この建物の保存活動には多くの方々が関わるようになりつつある。

話は数年前にさかのぼる。建築家の和田耕一氏が、「岡崎さん、県内にはどこか“ 懸づくり ”の建物はありませんか？」と問いかけて来た。大洲の臥龍山荘（不老庵）などはわざわざ聞くまでもないだろうから、と記憶の断片を追いかけながら、しばらくして想い出した建物があった。「あるある、確か大洲の少彦名神社にあったハズ。アレはいいかも知れない。」

善は急げ、とばかりに早速現地に赴くこととなり、ご案内したはいいが何分にも以前に眺めたのはもう十何年も前のこと。その神社は大洲市菅田 (すげた) に鎮座するが、実は二ヶ所（肱川上流右岸とその下流左岸）にあり、最初はどっちだったか間違えたほどに記憶が遠のいていた。

やっと本星である少彦名神社（下流側）にたどり着き、大鳥居をくぐって参道を進み、やがて鉦折れとなった斜路を上がり、「そうよ、ここ、ココ。」と現地を眺めた時には、ホッと胸をなでおろし、且つあらためてその異様に感動したのだった。和田氏曰くは「岡崎さん、こんなのがあるんやったらナンデ早う言わんのヨ。」と。（知らんがな）と心の中では密かに思ったが、確かに埋もれさせていい建物ではない。やがてその技術的先進性と、挑戦的と表現しても言い過ぎにはならない現場の立地状況など、次第に全貌が明らかになるにつけ、すっかり忘れていた我が身を恥じたのだった。やはり本物は、本物を分かる人物に見立ててもらって初めて輝きを増す、そうしたものなのだ。

しかし、その時に見た眼前の懸づくり建築は、ここ久しく使われた様子も無く、北西側の庇が垂れ、床には穴があき始めている惨状であり、周囲の木々も鬱蒼としたものだった。丁度泥道の参道が、鍵折れとなって上の社殿に向かう石段となるが、その手前の踊り場に面して、唐破風の正面出入口がある。背面の傷み具合が分かりづらい、死角にもなっていたようだ。このままでは、あたらムザムザと朽ち果てるばかりにも想えたのだった。が、これを残すのは、“ 言うは易く、行うは難し ”のようにも考えられ、どうしたものかと後ろ髪を引かれる思いで一旦引き揚げた。

その後、何とか保存の手立てを考える手掛かりに、地域に明るい旧知の亀田稔氏を訪ね、少彦名神社の歴史について概括をご教示頂いた。戦前期のチラシから名称が「参籠殿」と紹介されていることも知った。

紙面の都合で詳述を避けるが、社殿造営のあらましを追ってみると、大洲領藩政時代から一帯の梁瀬山は、少彦名命の埋葬地として入らずの山となっており、山上にはかつて古墳（円墳？）もあったらしい。伝説によれば、命 (みこと) は肱川を渡ろうとして溺れたことになっている。梁瀬神陵とも呼ばれるこの辺りは、言わば御稜地なのだ。明治親政となって以降、日清・日露の対戦を経て次第に世の中が落ち着きとゆとりを持ち始めた大正期には、郷土史家を中心に神社造営の機運が高まり、昭和に入ると時代背景もあって一気にそれが加速する。当時の大洲盆地は、製糸工場が建ち並び、マニラ貿易で財を成した松井国五郎（柚木の松井邸は国登録有形文化財）や朝鮮半島における建築業で気を吐いた多田順三郎、あるいは木蝋業の多士済々などが目白押しで、何とか社殿造営の建設資金に目途が立ったものと思われる。そうした昭和初期という時代機運の背景によって出現したのが現在の少彦名神社だった。

さて、保存をしてゆく為には、地元の関わりは不可欠である。ここに救いの神が登場する。１０年余にわたって神社の祭事執行や社殿地の掃除、管理などをボランティア作業で継続中の叶豊代表を始めとする“ おすくな会 ”の皆さんである。もっとも直ぐにコトが運んだ訳では無かったが、時間をかけて事と次第を熟慮して下さり、やがて保存のための実行委員会も結成され、昨年１２月１５日には市民シンポジューム「空中楼閣は何故生まれたか！」を開催するまでになった。目下は、参籠殿修復のための改修建設費（約２０００万円）を捻出するべく、募金活動中である。この稿をお読み頂いた方々の多くの賛同に期待したい。

なお、保存活動の一環として、いくつかの重要な事柄も判明しつつある。まず、最初の現地視察で床下に板図が発見されて、大洲市立博物館に無事収納された。屋根裏調査時には棟札も見つかり、昭和９年に上棟され、設計は中野文俊、工匠長中野良次など関係職人や多くの献納者名も判明した。何れの中野も臥龍山荘の不老庵を手がけた中野虎 (寅) 雄の縁者であり、中野組とも言うべき技術者集団を形成していた感もある。類い希な三方懸造りというアクロバティックな建築に挑んだ、その技術者スピリッツに大変興味をそそられている。

著者のプロフィール
１９５４年生　八幡浜市
八幡浜高校・明治大学文学部史学地理学科卒
ライフ・ワーク　町並ウォッチング
著書　「まちのデザイン・歩き目デスは見た！」

足場設置前

シンポジューム（平成 12 年 12 月 15 日開催）

懸づくりのアップ

棟札　2

（註）懸造り（かけづくり）とは
　伝統工法の一つで、急斜面などに建物を建てる際、束柱を貫工法で組みあげて支える技法。または懸崖造りとも呼び、京都清水寺の舞台が有名。

内部

微振動実験

内子らしくあるために

内子町　八日市・護国町並保存センター　西岡　真貴

「町並み保存」とはどういうことか･･･

町並み保存に仕事として関わるようになってまだ数カ月。想像以上に深く広い世界に戸惑うことも多い。

そんな中、先輩方から「町並み保存とは、伝統的な建物群を守ることで、ここ〝八日市・護国地区があり続ける〟こと。つまり、地域のアイデンティティーを問い、守っていくことなのだ」と聞いた。胸にストンと落ち、少し見えた気がした。

私の勤める町並保存センターは、八日市護国の重要伝統的建造物群保存地区内にあり、江戸時代に建てられた町家をお借りしている。新鮮な驚きや感動とともに過ごす毎日だ。その町並み保存を通して得た驚きや感動、そして自分の中で変化しつつある価値観について、この機会にいくつか紹介したい。

私は旅が好きだ。特に気に入った所へは何度も行く。ヨーロッパにもすごく好きなまちがあり、何度も訪れた。しかし、ある時からなぜか物足りなさを感じていた。そんなとき、町並み保存関係の書籍から、そのまちの建造物保存の経緯や都市計画などを知った。まちの背景を知り、より身近なものに感じられ、心は一気に満たされた。

この経験から、まちの歴史や成り立ちなど表面からだけではわからないものがいかに大切であるか、魅力を生んでいるかを学んだ。以後、まちの見方が変わった。

地方の都市は正直どこへ行っても同じに見える。どこか空虚でさみしさを覚える。一方、その土地ならではの工法で建つ家並みや、手入れの行き届いた農山村風景に触れると、そこの風土を感じ癒やされる。内子の町並み保存の先輩の言葉「三流の都会を目指すな、一流の田舎を目指せ」の意味がよくわかった。

先にも述べたが、町並保存センターは江戸時代に建てられた町家だ。修理されてはいるが当時の梁や柱も使われている。それだけでも感動的なのだが、さらに驚いたのが木材に残る釿（ちょうな）の削り跡だ。当時の大工さんの丁寧な仕事が伝わってくる。手間をかけて造られた家。かつては何十年も何百年も大切に住み続けるものだったのであろう。利便性や経済性が優位ではなかった時代の価値観を垣間見た。

釿の跡

それからはどこへ行っても「釿の跡」を見るのが楽しみになった。そこそこに違いがあり、どんな腕の大工さんだったんだろうか、几帳面な性格だったんだろうか、などと思いを馳せるのもおもしろい。

この重伝建地区には「八日市護国地区町並保存会」があり、地区住民や趣旨に賛同する賛助会員で構成されている。何よりこの方々が驚きと感動を届けてくれる。

「あそこの張り紙はかまんのかえ」「あれどがいなっとたかの」といつも町並みのことを気にかけてくれる会長、「漆喰団子つくったんよ」と好奇心旺盛な左官さん、「よし、町並みを巡視して回るか」と重い腰を上げた保存対策部長、「今年は私らも手伝いたいんよ」と前向き発言続出の女性部員さんたち、何も言わずそっと保存センターの裏木戸を直してくれる建築士さん、「暑いですね」から始まるご近所さんとの床几トーク･･･

ご近所さんとの床几トーク

重伝建地区は文化財でありながら人々が暮らす場所でもある。町並み保存もこれらの方たちの理解なくしてはあり得ない。古い町家は何かと不便なこともあるが、それでもこの町並みに誇りを持ち、守り、活かそうとしている住人たち。ここは単に古い町並みを再現しようとしているのではなく、伝統的な建物を残すことで地域のアイデンティティーを未来へつないでいるのだ。

1991年内子町発行の「内子の民家と町並み」に日本の民家研究の第一人者であった伊藤鄭爾（ていじ）先生からいただいたご寄稿がある。その中で先生は「近代文明はもう地方的な『らしさ』を持つ町並を造らせてくれない。内子らしさを創ろうとしても創れなくなってしまった。いま残っている町並と伝統的な建物は、内子らしさを示す最後のもの。これらの文化遺産を継承して伝えるのは現代の内子の人たちにとって義務といってもよいだろう（一部抜粋）」と言われている。

八日市護国の重伝建地区

現代、暮らしや町並みが変わっていくのは当然である。木造建築の技術継承や住民の高齢化など課題も山積している。そんな中でも、時代の流れに身を任すのでなく、その地域らしさを未来へ伝えられるかを常に問うことを忘れてはならない。私自身、まだまだ本質を見極められないが、大事なことを見失わないようにしたいと思う。

最後になりましたが、このような機会をいただきありがとうございました。内子へお越しの際は、ぜひ当センターへもお声をおかけください。お待ちしております。

平成２５年度『建築士の日』行事実施報告書

新居浜支部

行事等の名称	家づくり　なんでも無料相談
日　　時	平成 25 年 6 月 29 日～ 30 日
場　　所	イオンホール（イオンモール新居浜内）
対象者	一般市民
参加者数	来場者約 1200 名

活動の内容と成果

建築士による建築無料相談
地震対策講座（住まいや建物の耐震診断や耐震改修について）：5 名参加
建築士による実施工パネル展示、園児による　お絵かき　展示、左官体験、バルーンアート、板金折鶴実演、耐震相談、アンケート回答者数（6 月 29 日：121 名、 6 月 30 日：181 名）合計 302 名

平成２５年度『建築士の日』行事実施報告書

西条支部

行事等の名称	「建築士の日」の建築相談会
日　　時	平成 25 年 6 月 29 日（土）～ 30 日（日）
場　　所	イオンモール新居浜　イオンホール
対象者	一般
参加者数	約 1200 名（内　アンケート回答者 302 名）

活動の内容と成果

テーマ「家づくりなんでも無料相談」

今年も 6 月末の土日 2 日間イオンモール新居浜で西条支部・新居浜支部合同の建築士の日の事業を行いました。

主な物としては、家づくりなんでも無料相談、園児びよる塗絵展示、板金折鶴実演、左官実演（タイルアート）、耐震講座他をおこないました。

会員による風船バルーンアート（ドラえもん等）制作は非常に手の込んだもので子供に大変な人気が有り行列が出来ておりました。

本年は昨年の 1.5 倍の来場者が有り大変好評でした。

松山支部

行事等の名称	建築巡礼 in まつやま　V
日　　時	平成 25 年 7 月 13 日
場　　所	松山市道後～持田町
対象者	一般市民（公募）
参加者数	３０名

活動の内容と成果

支部の建築士の日の行事として 5 回目となる「建築巡礼 in まつやまＶ」を７月 13 日 (土) に松山市内で開催しました。今回は従来のバスツアー開催とは少し開催方法を変えてエリアを縮小し徒歩での見学会としました。道後温泉駅前からくり時計前に集合、点呼・開催挨拶・巡礼の行程説明の後、一路道後ぎやまんガラス美術館へと移動し内部見学、次に愛媛大学附属中学へと移動の途中、道後温泉本館を屋外から見学し附属中学・旧制松山高等学校構堂「章光堂」の普段入れない内部を見学しながら青年部委員による説明が有りました。

続いて、八束家で見学・昼食の後、建築家松村正恒設計の持田幼稚園へと移動、見学しここで俳句の士会委員による講評を行い選ばれた３首に粗品を贈呈しました。

一息ついたあと、砂土手～松山地方気象台～松山聖アンデレ教会～愛媛県教育会館の説明・見学を行い今年度の建築巡礼を無事終了解散しました。　説明担当委員による事前の現地調査・予行も有りスムーズな巡礼となったと思います。

アンケート集計によると、例年同様参加者の多くの方が建築士の生の声（説明）が聞けてよかったとのことで、次年度以降もこれらの感想を参考に「建築巡礼」を開催したいと思います。

建築巡礼 in まつやまⅤに参加して

松山支部　和田　崇

去る７月１３日に松山支部の建築士の日の行事「建築巡礼 in まつやまⅤ」に参加しました。

例年、一般の参加者を募り建築士会のスタッフがガイドをして松山市内の名建築や歴史的な建物を巡る催しです。

今年も新聞に建築巡礼の告知を出した後、申込みの枠があっという間に埋まってしまったそうで、徐々に一般の方にもこの活動が浸透してきているのかなと思います。

今回の巡礼地は道後・持田地区。本番の二週間前に花岡先生にレクチャーしていただいた内容を元に道後温泉駅周辺、続いて道後温泉本館を見学しました。

松山に暮らす自分たちにとっては知っているようで知らないことも多い道後温泉周辺の歴史ですが、今回の建築巡礼に参加したことで改めて勉強することが出来ました。

道後温泉本館の後は、ぎやまんガラス美術館を訪ねました。巡礼開始からあまり時間は経っていませんでしたが、猛暑の中徒歩での移動だったため、空調の効いた美術館内で過ごすことが出来、参加者・スタッフともにつかの間の休憩時間となりました。

その後一同は再出発し、一路附属中学校を目指しました。道後公園内を通り木陰を探しながらゆっくり移動しました。

近くに住んでいても普段は目にすることの無い旧制松山高等学校講堂。大正１１年の建築で国の有形登録文化財となっています。

近年改修されたようで、床板もとても綺麗でした。一般の学校では体育館と兼ねられることの多い講堂ですが、こちらは単独の用途で使われており、建物から歴史と静けさのようなものを感じました。

古い上げ下げサッシも現役で、窓を開け放つと気持ちの良い風が入ってきました。白と淡いグリーンを基調にした色使いもとてもモダンで、これからも大事に使われて欲しい建物です。

昼食時には昭和１１年に建てられた住宅、八束家住宅を開放していただきました。戦災を免れた当時の高級住宅は今見ても見応えがあります。心配になるほど細い

部材で構成されている箇所もありますが、そのあたりが品のある空間を作るための重要な要素になっているようにも思います。ディテールや設えも主張しすぎることなく、気持ちのいい時間を過ごすことが出来ました。

現在は設計者・施工者と役割が別れていることがほとんどですが、昔は棟梁が設計(デザイン)し、自ら施工していたと思うと頭が下がります。材料のことを良く知っていないと出来ないであろう仕事を見ると、自分も日々勉強が必要だと思いました。

昼食後は松村正恒先生設計の持田幼稚園に移動し、「建築や道後・持田の街並み」を題材に参加者の皆さんに作っていただいた俳句の中から優秀作を選び、表彰式を行いました。

暑い中考えていただいた句はいずれも甲乙付け難く、選考会もとても難航しました。(選考委員の安藤雅人さん、渡邉道彦さん、松平定真さんありがとうございました。)

持田幼稚園の内部を見学させていただくのは初めてでしたが、天井高や床レベルを巧みに操作していて、子どもたちにも楽しい空間になっていました。特にトップライトやハイサイドライトの使い方、少し角度をふった平面計画が印象的でした。

その後、昨年の中予地区のとびだせ建築士の舞台でもある松山地方気象台や聖アンデレ教会、砂土手、最後に

愛媛県教育会館を見学し、今年の建築巡礼を終えました。

無事に行事を終えることは出来たものの、炎天下を徒歩での移動であったため体力の不安を訴えられ、リタイアされた参加者の方も数名いらっしゃいました。開催時期の見直しや午前中のみの開催とする等、時間の短縮も検討してもいいのではないかと思います。

また、当日は参加者の方から建築士会とはどのような団体か、といった質問もあり「社会へのPR」となっているか、についても少し考えさせられました。当日配布する資料に建築士会についての説明資料や参加スタッフの顔写真付きの名簿を添付する等すれば、より参加者の皆さんに認知していただくきっかけになるのではないかと思います。

当日は立っているだけで汗が吹き出してくる暑さでしたが、参加していただいた皆さま、スタッフの皆さん、特にレクチャーや見学先への交渉をしていただいた花岡先生、本当にありがとうございました。

建築巡礼 in まつやま V に参加して

市民参加者　わたなべ　すみこ

建築士の日が 7 月 1 日なので、その日の近くで開催するらしいですが、それにしても…

初参加でこの過酷なツアー…私も含めて皆さん頑張りました。

7 月 13 日午前 9 時 30 分集合 。暑かった…本当に暑かった。余りの暑さに、お昼のお弁当にビールを付けてほしいくらいでした (笑)。　来年も炎天下の徒歩移動なら確実に付くでしょう。

さてあちこち沢山歩きましたが、個人的には八束家と持田幼稚園が良かったです。

八束家の〝一室洋館〟いっしつようかん 魅力的な名称で素敵な部屋でした。幸いにも直接奥様に質問したもので、沢山お話させて頂き役得。とても貴重なお話でしたので、直接皆さんの前でお話をして頂ければ良かったかと思いました。

持田幼稚園では園長先生のお話もオフレコで聞かせて頂き、とても興味深かったです。

今回参加してみて思ったのは、建物の話しも大事ですが、それを設計した建築士の人となりを織り交ぜての話しを聞きたかったです。

持田幼稚園設計の松村正恒氏のご実家も通りかかりましたしね。（註）松村氏が八幡浜で市役所にお勤めでどんな経緯で携わったのかなど色々興味は尽きません。そして、せっかく建築士が案内するならば、案内している方自身の建物に対する思い入れなども話していただきたかった。出来れば気候の良い時期に開催されれば、参加者が気持ち良く「建築士の日」が有る事を理解して楽しいひと時を過せて「建築士の日」がより思い出深いものになるかと思います。

お世話になりありがとうございました。

また来年にも期待しています。

（註）松村氏は、市役所を退き、昭和 35 年に松山で建築設計事務所を開設。持田幼稚園は、昭和 42 年に設計された。　―編集室―

平成２５年度『建築士の日』行事実施報告書

伊予支部

行事等の名称	市民と建築士が連携し安全・安心なまちづくり
日　　時	平成２４年7月２８日(日)　午後6時３０分～7時３０分
場　　所	伊予市灘町(山惣商店横・旧朝日生命ビル横)
対象者	一般市民
参加者数	１３名

活動の内容と成果

今年も去年と同じく、近い将来起きるといわれている「東南海・南海地震」に備え、災害に強いまちづくりを推進するため「木造耐震診断」と「木造耐震改修工事費用の一部を市が負担」のお知らせを印刷した「うちわ」を「いよ彩祭り」花火大会(今年から住吉祭りの名前が変更になった)の見物客等に配布し、地震対策に関心をもってもらうと同時に建築士のアピールを行いました。

今年は天候に恵まれず小雨の中での「うちわ」配りとなり、見物に大勢の市民の方が集まってこられるか心配しましたが思ったより多くの市民の方が集まってこられ、予定していた「うちわ」は全て配布できました。

見物客の中には地震に対して関心があると思われらる方が「うちわ」に書き込まれた内容を熱心に見ておられました。(特に年配の方に多くみられました)

今年も「うちわ」を配ることにより、市民のみなさんに少しは地震についての関心及び建築士のＰＲになったと思っています。

伊予支部は今年も少しでも市民の皆さんに建築士会を知ってもらおうということで製作した「うちわ」の一部をを双海地区のイベント開催時にも配布する予定です。

今回の「うちわ」配りには建築士会伊予支部の青年部の皆さんが多く参加してくれました。若い会員の方が行事に参加してもらうと活気がでます。

これからの建築士会の行事にも多くの若い会員の皆さんが多く参加してくれることを願います。

平成２５年度『建築士の日』行事実施報告書

大洲支部

行事等の名称	耐震診断・耐震改修の啓発活動
日　　時	平成 25 年 6 月 30 日（日）　13 時より 15 時
場　　所	大洲市　オズメッセ（Aコープ）前　　内子町　パルティフジ内子店前
対象者	一般
参加者数	建築士会支部会員１３名　大洲市役所都市整備課４名　　配布１２００名

活動の内容と成果

６月３０日（日）13 時より 15 時まで大洲市オズメッセ前と内子町パルティ・フジ内子店前にて耐震診断啓発用「チラシ」と「うちわ」の配布を行った。オズメッセ前では支部会員８名と大洲市都市整備課職員４名で大洲市支給の耐震診断啓発チラシと大洲支部製作の「うちわ」の配布、パルティ・フジ内子店前では支部会員５名で支部制作の「チラシ」と「うちわ」の配布を行った。「チラシ」と「うちわ」は大洲と内子６００部づつ合計１２００部用意していましたが、大洲オズメッセの集客が多く内子町配布予定の物を１００部余り大洲へ回し、結果、大洲市では７００部、内子町では５００部の配布となりました。この活動が少しでも市民の方々に耐震診断を受けていただく足がかりになればと期待しています。

オズメッセ前

パルティフジ内子店前

宇和島支部

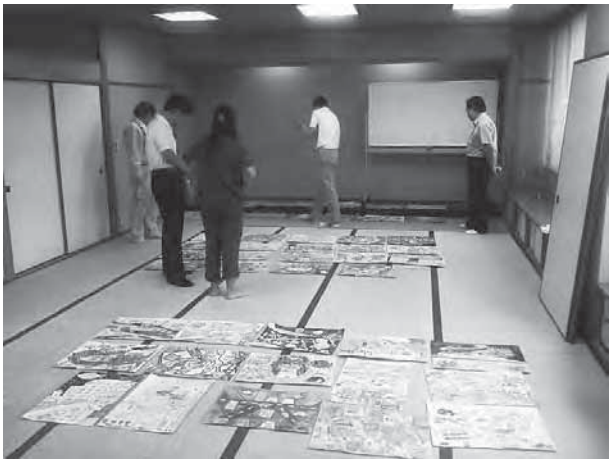
行事等の名称	2013 夢のまち･素敵なまち絵画展
日　　時	平成 25 年 6 月 30 日（日）　13 時より 15 時
場　　所	新橋通り銀天街（宇和島きさいやロード）
対象者	作品募集　市内小学校４・５・６年生　　絵画展　一般公開
参加者数	応募作品数　244 点　　来場者　約 2,000 人

活動の内容と成果

建築士の日にちなみ、絵画制作を通して子供たちに建築に対する親しみを持ってもらう目的で開始した絵画展も、今年で第 18 回となりました。

今年の応募総数は 244 点で、例年通り、宇和島しんばし商店街で展示会を行いました。

今年は、小学 4 年生に力強い作品が集まり、来場者の目を引きました。



７月２日　小学校の先生の協力のもと審査を行いました。

支部長賞をはじめ、合計１５点の入選作品を小学校の先生の協力のもと選びました。

商店街が実施している土曜夜市の中で展示を行い、多くの市民のみなさんに作品を見ていただきました。

今年は６年生が３名が入選された鶴島小学校において表彰式を行わせて頂きました。

クラボウ北条工場の見学会

文化財・まちづくり委員会　委員長　花岡　直樹

はじめに

今年度最初の見学会を、クラボウ北条工場で行いました。昭和 13 年創業のこの工場は、残念ながらこの 6 月末で閉鎖されました。10 月からの解体の前に、当時最先端だった工場を是非見学させていただきたいと申込み、実現したものです。

当日は守本卓郎工場長に、建物の特徴や生産の仕組みや流れだけでなく、現場に携わった貴重な実体験を話していただき、参加者は話に耳を傾けながら、建物を見て回りました。

守本工場長の案内で見学する参加者

クラボウ北条工場の概要

クラボウ（倉敷紡績株式会社）は明治 21 年 (1888) の創立で、北条工場は創立 50 周年を記念し、津工場（三重県）とともに、昭和 13 年 (1938) に創業を開始した。松山市北条の立岩川の河口南の瀬戸内海に面して、約 3 万坪の敷地を持つ。社長命で「最新の物を」を目標に建てられ、電線をすべて地中化するなど、当時としては近代化の最先端を誇る施設であった。

紡績錘数 20,840 錘、織機台数 146 台の設備を誇り、ユニフォームやジーンズの生地を主に生産してきた。従業員はピーク時には 2000 人もいたそうだが、機械の発達やオートメーション化により、今年の 3 月現在、136 名であった。

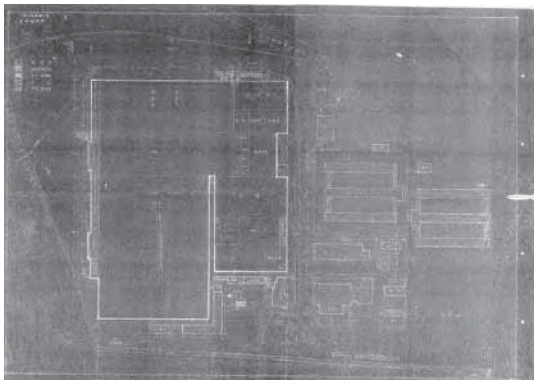
鹿島より見た敷地全体（古写真）

今年の 6 月で閉鎖され、10 月から来年の 4 月くらいを目処に建物を解体の予定で、跡地の具体的な利用方法はまだ決まっていないそうである。工場内で使われていた機械のほとんどは、全国各地やタイ、インドネシア、遠くはブラジルのクラボウの工場や関連工場に運ばれ、再利用されるそうである。

昭和 25 年には昭和天皇が視察に来られ、その記念に植えられた松の木が立派に育って敷地内に立っている。

建物について

生産施設である工場はもとより、事務所や守衛室などの管理施設、食堂･講堂･学校･病院などの厚生施設、寮･浴室・洗濯室などの居住施設などが、敷地全体に動線よく配置されている。男子寮の全部と女子寮の一部が解体されているほか、食堂を間仕切って一部倉庫に使用しているなどの改変はあるものの、ほぼ創建当初のままに維持されている。



昭和 12 年に書かれた配置図

工場棟は一定の大きさに区切り、その部分に鉄骨のトラスを架けることにより大空間を作り出している。屋根

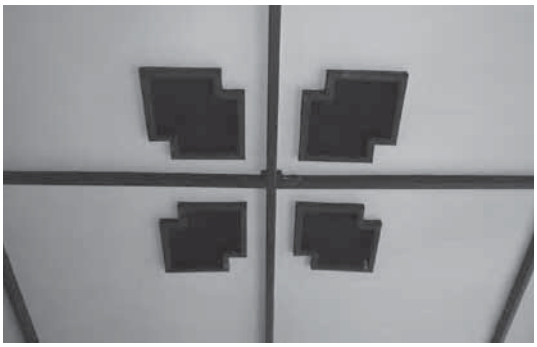
工場の内部　トラスが整然と並ぶ

当初の雨樋だけでは間に合わず後補の樋も見られる

の形状をのこぎり型にすることにより、高さが押さえられるとともに、北向きの垂直部分から採光がふんだんに取れ、工場すべての部分が自然採光だけで十分に作業ができる明るさである。ただ雨水を谷樋で処理せねばならず、ゲリラ豪雨のときなどの雨漏りの苦労も多く、修理や対策にかなりの費用を費やしたそうである。

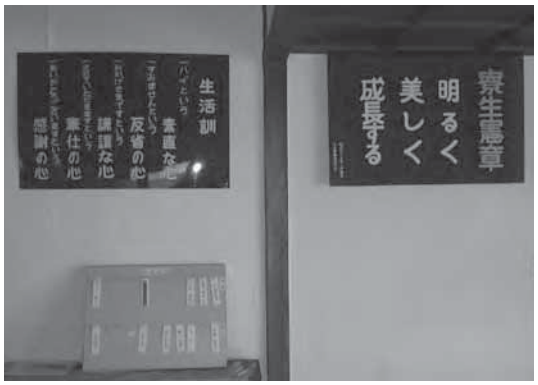
厚生施設では、第二次世界大戦直前ということもあり、贅沢は許されなかったと考えられるが、随所に工夫したデザインが散見できる。その中に「学校」と呼ばれる建物がある。当時の女子従業員のほとんどは中学校卒業で、ある程度の年齢に達するまでにいわゆる「良妻賢母」を目指して和裁・洋裁・料理・茶道・華道などの基本的な技術・作法を身につけてもらおうというものである。

調理室内部の様子


調理室天井の換気口

居住施設は、質素でありながら清楚で動線よく配置されている。女子寮の居室は 12 帖の和室で、押入れや洋服たんすが備えられている。たんすが 4 人分設置されていることから、4 人部屋であったと考えられる。

寮の北側にある洗濯場は、建物は劣化して鉄骨造で建て替えられているが、整然と並んだ洗濯流しは圧巻であった。多くの女子従業員が並んでおしゃべりしながら手洗いで洗濯している様子を見るとき、当時の工場の勢いがうかがえたことと思う。



女子寮に掲げられている寮生憲章と生活訓

洗濯場の内部の様子

これらの厚生施設や居住施設が整って美しく見えるもう一つの理由は、屋根がオレンジ色の釉薬瓦で統一して葺かれているということがあげられる。当初の図面には「和型塩焼桟瓦」と表示されている。材料の粘土や金型は日本瓦と同じで、約 900℃に焼けたところで、塩（塩化ナトリウム：NaCl）を投入して焼く手法だそうである。粘土の中の鉄分が二三酸化鉄（Fe_2O_3）に酸化して赤くなり、熱で生まれたナトリウムイオン（Na^+）が瓦の表面に蒸着して光沢が生まれる。窯の中の炎からの距離や塩の濃淡によって焼き斑（窯変）が生じ、葺いたときに独特の雰囲気を醸し出している。

また、工場の県道をはさんだ東側には、社宅群が建てられている。役職に伴い階数や規模が違う住宅が建ち並

女子寮の外観　屋根は和型塩焼桟瓦で葺かれている

び町並みを形成している。この社宅も工場と同じ瓦で葺かれている。現在では考えられないくらいの広い区割りで、建物を少し角度をつけて配置し、落ち着いた雰囲気を生み出している。

保存資料について

管理職クラス用の２階建ての社宅

本工場には、建設当初の昭和１２年に書かれた設計図が多く残されている。ほとんどはＢ２版の用紙に書かれ、青白逆転された青焼きの図面である。良質の用紙に印刷された上、保管状況がよかったため良好は状態で残されている。トラスの細かい構造図や、木造建物の詳細図は１／２０の縮尺で精緻に書かれていて、高い技術力がうかがえるものである。

また、後に増築された男子寄宿舎の昭和１４年の設計図や水槽（浄化槽）便所設置許可申請書や添付図面、その他多くの申請書や図面が保存されている。

それぞれの撮影時期は不明であるが、当時の建物、工場での生産、寮での生活の様子が写っている古写真も数多く残されている。

終わりに

見学をさせていただきながら、施設や建物のすばらしさを実感するうちに、後しばらくするとこの工場が解体されてなくなる、ということが信じられがたく寂しい気分になってきました。建物をこのまま保存し、文化施設にでも･･･、と思ってもかなうことではありません。見せていただいた会員の心に、こんなすばらしい工場があったということが残ればせめてもの幸いで、見られなかった他の会員の皆様にも知っていただきたいという一念でこの原稿を書きました。

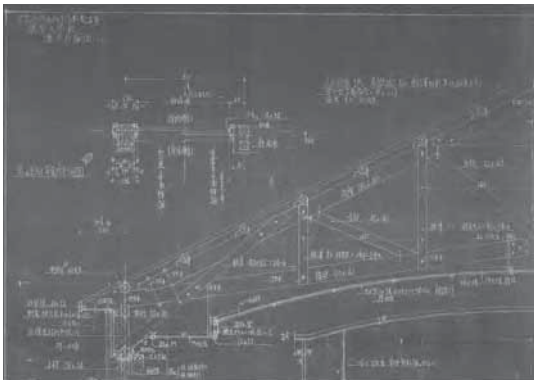
最後に機械解体搬出中のお忙しい中、我々の見学に立ち合い、いろいろ説明してくださり、合わせて貴重な資料を見せていただき、このいしづちへの掲載を許可してくださった守本工場長に改めて御礼を申し上げたいと思います。

寺尾副会長の挨拶

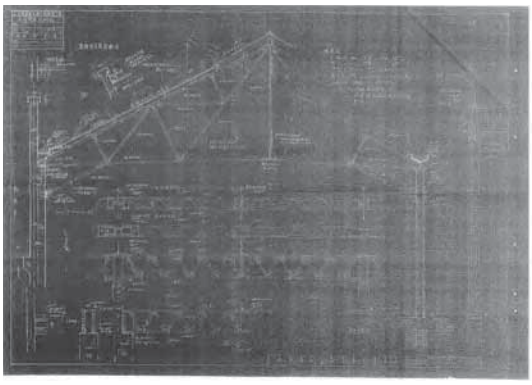
守本工場長（右端）に感謝！

見学日時：平成２５年７月１５日（月・祝）
参 加 者：委員他１６名

当初の設計図


講堂及び学校の断面詳細図（部分）

工場での作業の様子


工場棟トラス詳細図（全体）

講堂の内部　畳敷きとなっていた

古写真

正門あたりから食堂、工場事務所を見る

食堂内部の様子　ひとテーブル 8 人掛け

女子寮の中庭の様子

女子寮での生活の様子

クラボウ北条工場見学会

松山支部　石﨑　洋介

平成２５年７月１５日（祝）に文化財・まちづくり委員会主催のクラボウ北条工場見学会に参加してきました。

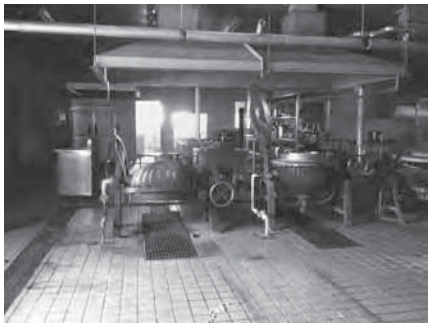
見学会には暑い中、花岡委員長をはじめ１６名が参加されていました。私は文化財・まちづくり委員会の見学会に今回初めて参加させていただきました。このような大規模な工場を見学させていただける機会を頂きましてありがとうございました。これからも是非、見学会等参加させて頂きたく思います。

最後に暑い中、工場の説明や苦労された話、貴重な体験談を話していただきましたクラボウ北条工場長の守本様、大変お世話になりありがとうございました。

正門（守衛室）

廊下の手洗い

長い廊下


厨房

教室

トラス屋根

のこぎり屋根

工場内部１

工場内部２

防火戸

宇和島木屋旅館と 高野長英居住地跡見学会について

今治支部　尾越　竜子

政治家犬養毅や作家司馬遼太郎など名だたる偉人に愛された宇和島市の「木屋旅館」が、平成 24 年 4 月に「今」の価値を加えて「一日一組」という滞在型旅館として、再生したことについて知ってはいたものの、なかなか足を運ぶ機会がなく一年を過ぎていた。

女性委員会で南予見学会を企画させていただく運びとなり、この計画のためにはじめて宇和島を訪れたのはまだ肌寒い 3 月初旬のことだった。

この「木屋旅館」は、廃業にともなう老朽化で、解体されそうになっていたところを酒井純孝先生率いる宇和島支部の文化財調査委員会が立ち上がったことから、保存に世論が動き始めたと聞いている。その後、宇和島市もこれを中心市街地再生事業の核とするべく買い取り、東京の建築家　永山祐子氏らをはじめとしたプロジェクトチームが結成されたのだ。

先述の酒井先生が竣工にいたるまで、長期に渡り、このプロジェクトのために奔走されたことは言うまでもないが、私は、古い建物が、単にリノベーションされただけと思い違いしていたことが大変恥ずかしく思えた。

日本には「温故知新」という言葉があるが、古きを尋ね新しきを知る意味の通り、この旅館にぴったりな四字熟語ではないかと思う。

この古きを尋ねるために、酒井先生達が約 10 年間もの間調査や説得を繰り返したこと。ダニや埃とたたかいながら、はじめは「壊すなんてもったいない。」という小さな水紋が大きくなっていき、またこれに共感していく人が増えていったこと。若い東京の建築士のデザインに対する技術的サポートをしたこと。市役所、民間、東京、宇和島と場所や組織を超え「宇和島」のために「木屋旅館」のために手を携えたこと。このような裏話があり、建物だけではなく、そこに多くの人の力が結集したこと。私は、このことが何よりも価値があるのではないかと思った。

さて、見学会は、一般の方 20 名と賛助会員・士会員 24 名を加え、計 44 名の方が参加し、実に有意義な三時間であったことは言うまでもない。

宇和島藩の歴史や背景をまじえながらの酒井先生のお話はとても楽しかった。

一般の方は、酒井先生の古建築と歴史ファンが多く、同時に見学した「高野長英居住地跡」でも、歴史に埋もれた長英の人間らしい生きざまの話などを聞きながら、建物を見学したときに、長英が使った襖をあけ、タイムスリップした気持ちになったのではないかと思う。

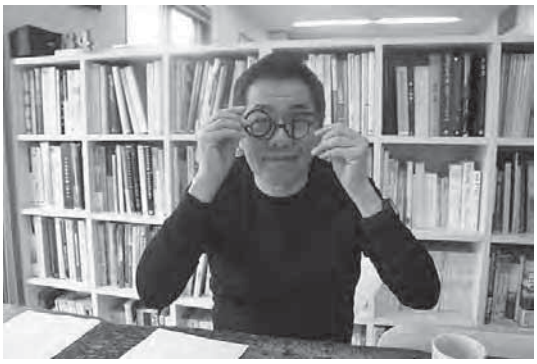
最後に、この見学会でお世話になった講師の宇和島支部　酒井純孝先生と木屋旅館の管理人であるグレブ・バルトロメウス、千佳江夫妻。そして、ご参加下った会員の皆様にに心より感謝申し上げたい。

ありがとうございました。

青年・女性建築士の集い 中四国ブロック高知大会に参加して

青年委員長　森川　晴喜

６月８日　高知市にて中四国ブロック青年女性建築士の集い高知大会が開催されました。
高知県民文化ホール グリーンホールで行われた基調講演では、講師に梅原真氏を迎えて、チャンネル土佐「笑いと産業」の演題で講演されました。独特の間を持った梅原氏は、一次産業をデザインでプロデュースするをモットーに、高知県の弱点を強みに変える発想で、数々の企画・産業を推進してきました。高知県だけでない様々な地域や場所で通じる発想・行動を聴かせて頂きました。


梅原　真氏

その後始まった、分科会Ａでは中四国９県地域実践活動報告が行われました。わが愛媛県は８年前に始まった「とびだせ建築士」の活動経過を発表しましたが、残念にも４位でした。１位の香川県の発表は廃校を利用した活動、鳥取県の音楽ライブと建築トークライブを融合させた活動など参考になる活動を聴くことができました。

分科会Ｂでは、梅原氏のプロデュースした「四万十ドラマ」の立役者、畦地履正氏の講演と「四万十川新聞バッグ」の作成。分科会Ｃでは、「輝く田舎」と題し、地元の若手建築士が作品を紹介し、各県の代表と熱くディスカッションを交わしました。

その後の懇親会では、高知の地酒と、高知の若手建築士による音楽ライブと厚いもてなしで２次会まで中四国一丸となって盛り上がり、交流を深めました。

宇和島支部　女性委員長　田中　明美

６月８日～９日と高知大会に参加しました。
今回は青年委員会、女性委員会合同で松山からバス組と宇和島より自動車組で参加いたしました。　私は宇和島より車分乗組で参加しました。１日目は曇り、２日目はあいにくの雨でしたが、楽しい２日間でした。９年前にも高知大会に参加していましたので、特に期待していたものはありませんでしたが、参加してよかったと思っています。開会式、基調講演、分科会と内容も面白かったと思いました。高知県知事尾崎氏の若さ溢れるご挨拶にも土佐を感じました。基調講演の梅原氏の「チャンネル土佐「笑いと産業」」も時間の経つのも忘れる位面白く、以前ニュースで見た２０００枚のＴシャツが砂浜でひらひらを「変わった事するなあ、洗濯ものを干している様にしか見えんがな」と思っていましたが、視点を変えた芸術なのだと、少しわかりました。また、Ｔシャツひらひらが、モンゴル、ハワイにまで展開していることも知りました。建築士に必要なセンス、芸術にうとい私も、感じるものがありました。
四万十川流域で販売するものをすべて古新聞でつつもう！をコンセプトに「しまんと新聞バック」をプロデュース。国内だけにとどまらずベルギーを始め世界へ展開しているとの事驚きました。昔から野菜や花、あらゆるものを新聞に包んできましたが、当たり前すぎて商売にする発想など浮かんできません。デザインするを加えると商品になり、今新しいものとして販売される。そこ等じゅうに、宝が転がっている。駄洒落で遊び商品にする魔法の杖が私もほしいと思いました。
私は、Ｂ分科会・知る・語る・考える・・・そして「つくる」に参加しました。「じゅうみん株式会社　四万十ドラマ」の畦地氏の地域に密着した自然循環型企業としての考え方のお話は、今私の住んでいる鬼北町と気候や風土、産業（農業）の共通点が多く、改めてわが町を考える機会をいただきました。新聞バック作りも楽しみました。帰ったら作ってみようと思いましたが、まだ作っていません。忘れない内に挑戦しようと思っています。懇親会も、久々に楽しみました。高知の皆様の一生懸命のおもてなしをいただき、おいしいお酒もいただき、参加してよかった。ハッピーと思ったのは、私だけではないと思います。高知県の皆様ありがとうございました。

新聞バック一生懸命作りました。

新聞バック一生懸命作りました。

新居浜支部　鴻上　八大

「はちよ～ん」って言うからなんだろうなって聴くと高知県の森林率が８４％だという山の価値を再認識するという面白いプロジェクトで、土佐の高知の特性を最大限活かし誇りを持って、独自の文化・産業を生み、発信しているということを知り、それぞれの地方を考える手掛かりとなることを考えさせられる面白い講演でした。

新居浜支部　青野　一輝

初参加でしたが、なんで、今まで参加しなかったのだろう？？
と、思うぐらい楽しんできました。
懇親会では、鰹のたたきを実演体験させていただき、他県の建築士の方々とも、ひろめ市場の話で盛り上がり、充実した大会でした。
新居浜支部の皆と、〆はやっぱり屋台の餃子！！（おいしかった）
来年も参加しよう！！

新居浜支部　和田　卓巳

地域実践活動報告に参加しました。建築と子供の交流、他業種との交流、保存など、色々と各県取り組んでおられ、大変刺激を受けました。今後の支部活動の参考にしたいと思いました。
懇親会での鰹のたたきは、さすが本場、新鮮で美味しかったです。
今回も他県の仲間が増えました。ありがとう。

新居浜支部　宮﨑　秀俊

十数年ぶりの参加だと思いますが、楽しいひとときを過ごせました。
若い力を感じ、自分自身も若返ったように思います。
また機会があれば参加したいです。

今治支部　青陽　孝昭

分科会形式が新鮮でした。私は分科会Ｂ知る・語る・考える･･･「つくる」にて質問者の大役を受け、いきなりのトップの発言となりアイスブレイク役を果たせて満足でした･･･（苦笑）あと配布資料が充実しており有意義な大会であった。

今治支部　加地　このみ

初めて訪れた高知県でしたが、気候風土や家に対する考え方のちがいに驚き、自分たちの力で地元を盛り上げようとしている高知の方々の雰囲気がすばらしいなと思いました。今回行くことができなかった建築の名所や観光スポットにも、今後行ってみたいと思っています。

松山支部　大塚　美由紀

～いごっそうと語る地方文化と産業～今年の高知大会はまさにそのテーマ通り。
地方独自の風土や特性から様々な文化、産業を生み出していく土佐魂に感服。
アイデアの基はどこにでもある。短所も逆転の発想で考えれば長所として売り込める。柔軟に考える事の大切さを実感。

松山支部　渡邉　道彦

愛媛県大会を含め、今年で３回目の参加になりましたが、回を重ねるとともに顔見知りも増え彼らに再開する喜びもありますが、お酒の席では独りボーッと座っていても初対面の相手に話し掛けられたりと、参加するまでは、大会の意義すら理解出来ていなかったのに、思いのほか楽しみなイベントになってしまいました。
有名な建築家と同席するような機会は滅多な事ではないかもしれないけれど、まだ何者にもなっていない若手同志が夢を語り、刺激し合える場としてこんなにイイ機会はないと思いました。
今年の懇親会では、息子と１つ違いの学生さんと隣り合わせになり恋愛相談を受けるハプニングもありました。

松山支部　近藤　岳志

高知の気候、風土、そして人を通じて高知の大きなエネルギーを痛感しました。高知県の森林率が８４％という事を生かした県産材の活用、戦後から減少している伝統的な土佐漆喰を生かした空間づくり等、様々なマイナス条件をプラスに転換していく前向きさは、僕たちに希望を頂いた気がしました。高知の建築士会の方にこの場をお借りして御礼申し上げます。

松山支部　橋本　智恵美

６月８・９日に高知で行われた中四国ブロック大会へ参加してきました。あいにく、８日は子供の運動会と重なってしまい、キャンセルしようかと思ったのですが、「懇親会までに到着してくれればいいから。」という、皆様からのあたたかい言葉？に甘えて、途中からの参加となりました。
屋外での大懇親会・会場貸切での２次会・宿泊したホテルの前で開催されている日曜市・エキスカーションと、遅刻した分も取り返すほど楽しんできました。９月に愛媛で開催の若手建築志交流会では、他県からの参加者に楽しんでもらえるよう企画したいと思います。

松山支部　横田　彩

６月８日(土)、９日(日)高知県高知市において開催された中四国ブロック大会に参加させて頂きました。デザイナーの梅原　真氏の基調講演では、デザインは消費者と生産者をつなぐパイプ役を果たしていると感じました。
その後、分科会に別れ、「新聞バック」づくりの体験へ！簡単な作りに思えた新聞バックでしたが、いざ作るとなるとなかなか・・・。こんな手の込んだ物とは思ってもいませんでした。作り方は覚えたはずと、大会から帰って作ってみると、ちょっと思い出せない箇所があるもののなんとか形にはなりました。これから時間を掛けて思い出し、皆さんに教えられるようにします！

松山支部　赤松　慶隆

高知の方のおもてなしの精神に感服しました。
講演ではコンセプトデザインの重要性を学び、エキスカーションでは土佐漆喰に触れることが出来、貴重な体験が出来ました。

松山支部　白石　学

梅原様の講演と分科会の建築士の発表で、熱い想いとセンスを持った高知人の話を聞き、高知建築探訪でも良い建築の数々を目にし、愛媛も頑張らねばと思いました。
美味しい酒と料理とでもてなしの、夜空の下での懇親会がとても印象的でした。

松山支部　和田　崇

出発直後にバスの故障といったトラブルもありましたが、高知の方々の暖かいおもてなしを受け、充実した２日間でした。
森川さん、地域実践活動の発表お疲れさまでした！

松山支部　松平　定真

毎年恒例の中四国ブロック大会。今年は朝一からバスの故障、運転手さんも焦ったと思いますが、乗客全員もドキドキだったと思います。高知の８４%は森林だったとは･･･道彦さん「はちよ～ん」ステッカーありがとうございました。皆様、また来年も宜しくお願いします。

松山支部　山田　宏

こんにちは。
高知駅（内藤廣）・はりまや橋・高知城・ひろめ市場（松平・橋本JV？）・LOUIS VUITTON 高知店（乾久美子）・高知県立牧野植物園・牧野富太郎記念館（内藤廣）素晴らしい建築・おいしい食事・素敵な仲間に囲まれ贅沢な２日間ありがとうございました。

八幡浜支部　眞田井　良子

今回の大会は、以前より興味関心のあった道の駅「四万十とおわ」の立役者のお二人のご講演＆ワークショップでしたので行く前より楽しみにしておりました。
梅原真さんからは、デザインと「モノ」「コト」と消費者との距離感の大切さや発想の転換による最大限の効果、そして、畦地履正さんからは、歴史や文化の深堀の大切さを学ばせていただきました。
ワークショップでは、実際に道の駅「四万十とおわ」にて販売されている「新聞バック」というエコアートの制作に取り組み、その可能性を実感させていただきました。
まちおこし活動のヒントをたくさん得ることが出来ましたので、今後、実践する際に役立てていきたいと思います。高知県建築士会のみなさまの準備・運営、多岐に渡り大変だったと思いますが、どうもありがとうございました。

西予支部　山内　真一

高知大会に参加して、私の中で一番印象に残っていることといえば、基調講演の梅原さんの楽しい話でした。その中でも、日本瀬一番森林率の高い県が高知県とは以外で、その８４%の森林率をかけて「８４プロジェクト」として高知をブランド化していくって良いですね。非常に良い講演でした！「はちよ～～ん」

大会風景

牧野植物園

牧野植物園

二次会会場

懇親会風景

エキスカーション　土佐漆喰と自然の体験

分科会　B

森川委員長　たたきに挑戦

ルイ　ヴィトン

平成 25 年度 青年総会　報告

青年委員長　森川　晴喜

6 月 1 日　平成 25 年度青年総会が県下 30 名の青年委員のメンバーによって開催されました。

平成 25 年度の活動計画・予算等が承認された後、9 月 28 日に愛媛県で開催される「若手建築志 (士) 交流会 inEHIME」の概要が説明されました。中四国各県の若手建築士のメンバーを迎えて交流会を行います。愛媛の青年だけでなく、女性委員会にもお手伝い頂いて有意義な交流会になるよう計画していきたいと思います。

関東甲信越建築士会ブロック会 千葉大会に参加して

今治支部　青陽　孝昭

昨年の建築士会茨城大会大懇親会二次会にて関東ブロックの方々と約束をしてしまい６月27日～29日に関ブロ千葉大会に松本青年副委員長と行ってきました。初日27日は木曜日お互いぎりぎりまで仕事ができるように松山590便12:00～珍道中の始まりである。前日より現場でちょっとしたトラブルがあり今治から松建産業まで電話しながら（もちろんハンドフリーにて）松本さんとは言葉も交わさず手振りでワーゲンに乗ってもらい香南Ｐにそして11：40空港チェックインと同時にトラブルも一段落、13：25定刻通り羽田に着く、たいがいはここでモノレールで浜松そしてＪＲにて東京駅に向かうのがお決まりだが、シャトルバスにて東京へ向かう私好みに彼をつき合わした。

初日は19：00～の関ブロ青年協理事懇親会に間に合えばそれまではフリーであった。そこで、っ言うかその前に少し今回の上京の補足をしておかなければ話がおかしくなるので、ちょっと余談　渋谷で設計事務所をしてる友人が三月に所員さんを連れて今治に来たときに松本さんを引き合わせてしまい(笑)その事務所さんが宮城県岩沼で設計している物件で土間を三和土でやりたいって事でずっと松本さんと相談していたらしく、また施工は地元の方々が行い建築に愛着を築いて頂けるようにワークショップをしながら作っていく計画まで進んでいたらしい・・が、実際に三和土を作ったことのある職人さんがいないらしく松本さんが現地でワークショップ講師に、聞くと竣工式は７月10日と決まっていたが肝心なWSの日程がなかなか決まらなったのだが、我々が千葉に行くのは決まっていて先方は6/30にやりたいって言うこと事は、松本さんはどないせいって感じであった。彼らと松本さんを引き合わせてしまった事に責任を感じ6/29にWS実施に尽力させて頂いたのである。って訳で僕も行かないと格好がつかず、千葉大会エキスカーションを断念しました。が･･･(笑) エキスカーション建築体操ネタは後半に

話は戻り東京駅から懇親会まで、５時間

岩沼WSの打合せはメールで簡単なもので我々は不安であった為この際、渋谷の事務所に行ってみる？って事になりアポの電話 「30分くらいで行くから１時間くらい下さい」程度のやり取りでタクシーに乗り事務所へ。東京駅から渋谷までの道中はまるではとバス観光的で楽しく表参道なんて建築家の品評会であったが、彼は国会議事堂＋皇居＋警視庁の方が楽しそうであった。渋谷の事務所につくと４階のミーティング室に通され秘書が緑茶の様な抹茶の様な冷たいお茶を出してくれ担当者二人と我々の四人でWS手順や施工注意事項を真剣に話あったのだが、正直僕は途中から蚊帳の外で部屋にある備品（トロフィーやメダルそして金色の椎）を眺めていた・・笑

渋谷でWS打合せ

そうこうしてると打合せも終わり所員さんに気になる備品について説明を求めたのである。

やっぱり一番気になるのが先日届いた日本に六つ目のメダルである。案外、貧そな箱に収まっているのにちょっとびっくり！気がつけば１時間余り御邪魔しておりそろそろ千葉に向かう事に。渋谷駅まで歩く道中、腹がへっている事に気づき吉野家へチェックイン。FB投稿も忘れず、食後のいっぷくをスクランブル交差点喫煙所でしちると「せ～よ～さん～」て声を掛けられる！じぇじぇ！FB（フェイスブック）恐るべしこれまた渋谷で設計事務所をやってる友人！FB見て牛丼の後いっぷくしてるかと思って尋ねてきたらしい。

渋谷で友人と再会

急遽、彼の事務所にも御邪魔しその頃すでに五時･･「渋谷で♪五時♪」渋谷で今宵も始めたい気持ちを抑え千葉幕張へなんだかんだで、6:50チェックイン急いで例のオレンジポロシャツに着替え懇親会へ　いよいよ関ブロ

大会の話に入ります。理事会懇親会と言う事もあり総勢30名程度で知らない顔の方が少ないくらいでちょっと安心、円卓で左隣に東京士会佐藤青年委員長、右隣に東京士会渡辺さんその隣に目黒支部の石川さん（翌日の地域実践活動報告者：みんなで街をつくろ～）茨城大会からの再会ということもあり話はかなり盛り上がり佐藤さんからは支部間の連携的な話、会員が多い分いろいろ苦労があるみたいで、渡辺さんは来年の東京大会について、石川さんからは明日の発表の話。なんとなくであるが、愛媛や今治と同じような事でみんな悩んだり楽しんだりしているんだ～ってちょっとホッとしたり刺激になったりした一時であった。

宴も後半、じぇじぇ！中締めは一本〆かと思いきや宴の際に盛り上がってた一言でみんなで叫ぶみたいで、「い～ち・に～・さ～ん・だ～」でした。ちなみに昨年の茨城での二次会は愛媛がすることになって、誰かが僕が楳図かずおに似てるって事で。「ぐわし！」でした。

二次会へは、神奈川士会奈良青年委員長と金子川崎支部長と松本さん四人で場末のスナックでカラオケ合戦（写真は松本さんからNGとの事・・うふふ）

青山実行委員長と松本さん

翌朝10：00～大会受付これにはびっくり！中四国じゃありえへん光景（僕の知る限り）各県受付があるのは当たり前だが、建築書の販売（エクスナレッジ）一割引き販売：石州瓦販売促進ブース：金物メーカーブース：モニター画面販売促進：千葉県住宅センターなどなどあと千葉県産のおみやげコーナーがずらりその最後に郵パック、クロネコヤマト

12：00～全体会議が始まる事を考えれば暇をしない受付周辺であった。

11：00～第一分科会審査方法説明が行われていて、興味があり傍聴させてもらい、これまた、目から鱗である。各都県で統一された趣旨の元に発表されるのである。だから審査の基準も明確であり審査方法も明確　中四国も導入すべきと個人的には感じた。その他に企画展示の部屋には主に千葉士会の活動報告的な展示があり、地域実践活動報告に関するポスター展示など受付から約二時間、十分楽しめる内容であった。ちなみに企業ブースは16：30まで、企画展示＋事業報告展示は大懇親会終了20：00までありました。

いよいよ12：00全体会議1はじめに実行委員長挨拶から千葉士会会長挨拶ほかいろいろな方々の挨拶がありいろいろな報告が続き12：45終了！じぇじぇ！基調講演がない！あとで解説します。13：00より三つの分科会が始まり我々は第一の地域実践活動報告を傍聴、中四国と同様に全国大会を意識せず各10分間の発表でした。高知大会の7分は僕は聞いていないのですが、僕がやらせてもらった5分じゃやっぱり伝えきれないが、10分ともなればかなり聞きごたえがあった。質問したな～って思う事もオチとして語られたりして、何より始めに書いた様にテーマが明確にあり勝ち負けより他府県の活動を参考に自都県に持ちかえろ～って感じがすごく感じられた。

17：00より全体会議2が始まりこの会議は各分科会の成果発表的な時間で参加できなかった分科会がダイジェスト版で感じられました。

大懇親会にて

この時間を作る為に基調講演が無いのは合理的であると感じました。17：45終了し、お待ちかねの大懇親会18：00スタート乾杯までにはいろいろな方の挨拶がとにかく長かった。山口士会の玉井さんの様な挨拶がやはり僕は好みですね♪ま～乾杯から宴が始まり和気あいあいと行われ昨夜会えなかった友人達と語り余興では、翌日のエキスカーション建築体操を各都県で戦い、お土産を持ち帰るのが始まり、神奈川士会奈良さんの計らいで、（昨夜の二次会で我々はエキスカーションに参加せず宮城に行く事を伝えていたからであろう）神奈川チームに参加させて頂きましたが予選落ち・・残念

懇親会余興へ神奈川士会に交じり建築体操へ

けどしかたありません、隣りで東京士会の美女三人組み！そりゃ～まけるって！結局彼女達は銀メダルでした。そのあとしばしの歓談のあと大懇親会は御開きとなり、各府県別二次会に移り神奈川士会さんに混ぜて頂いて交流を深めてきました。翌日、宮城県岩沼へ行き羽田599便で愛媛に帰ってきました。

大懇親会で次年度東京大会アピール

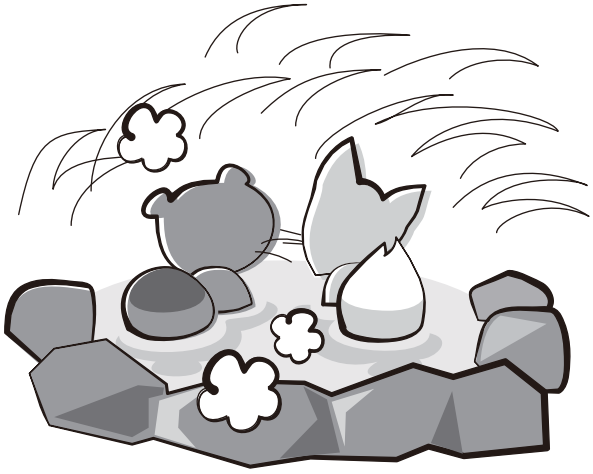
来年の関ブロ東京大会6月20日（金）みなさん一緒に行きませんか！きっと楽しいですし士会に入ってよかったな～と感じれると思います。

少々お金ためとかなくちゃいけませんが・・

そして家族への気遣いと

ながながとお付き合いありがとうございました。

なぜか東京士会と来年東京大会アピール



全国女性建築士連絡協議会【全建女】—参加報告—

松山支部　大塚　美由紀

７月１３～１４日に開催された第２３回全国女性建築士連絡協議会に参加してきました。

今年のテーマは「地域と共生する居住環境づくり」～見直そう、これからの住環境と暮らし方～でした。

一日目、基調講演のテーマは「江戸に学ぶ狭楽しさ」講師は『リフォームは、まず３００万円以下で』、『転ばぬ先の家づくり』、『「おひとりさま」の家づくり』など多数の著書で有名な天野彰氏。

もともと国土の狭い日本の都市に集中して住めば住まいが狭くなるのは当然。その狭い空間が狭“苦しい”ものではなく、狭“楽しい”空間になるように工夫を凝らしていく。増築に増築を重ねて住み辛くなった家では減築する事で採光、通風を良くし、省エネ、CO_2削減につなげていく。また、高齢者になっても我が家で自立して生活出来るよう、ベッドからトイレ、浴室へ自力で腰をずらして移動するベンチや洗い場まで這ってでも行ってシャワーが浴びられるようにするなど究極の自立を考える。それがリハビリで厳しい時代を“活きる”意識を養う事になる。そういった事例をご自身の体験も踏まえながら話してくださいました。

二日目はＤ分科会「環境共生住宅と素材」に参加しました。分科会の趣旨は、身近な地域の事、次世代につながる将来の事、グローバルな地球の事も含めた「環境共生」を考える事でした。その中で今回は「地域の素材」を活用する為の取り組みが紹介されました。

寒冷地域における環境共生住宅の取り組みとして、福島県南会津町舘岩湯の花公営住宅湯の花団地が紹介されました。湯の花団地は寒さが厳しい豪雪地域だそうですが、行政、設計者、地場の大工・職人、地元住民との協働で、自然環境や場所性に配慮し、木材の活用や地域の生活スタイルに対応した住まいづくりが実現できたようです。

温暖地域の取り組みとしては、高知県の住まいづくりが紹介されました。土佐漆喰、水切り瓦、５寸勾配の屋根など「土佐派の家」といわれる考え方が受け継がれているようです。発表者の方は豊かな自然に囲まれている事や、自然素材を使う事が特別な事ではなかったので「環境共生」という事を意識した事がなかったとの事でした。

最後に中間地域の取り組みとして、石川県の取り組みが紹介されました。女性委員会の勉強会「じわもんめぐり」(じわもんとは石川の言葉で“地のもの”)の活動報告でした。「柿渋」「炭焼き」「小舞組」「畳」「蛍光灯リサイクル」についての報告でしたが、取り組みとして面白いと思ったのは、基礎知識を勉強するだけではなく実際に見に行ったり、触ったり、作ったりする体験型勉強会だという事です。体験型にした事により参加者が増えてきたとの事でした。是非参考にしたいと思いました。

真夏の東京での協議会で疲れもしましたが、様々な取り組みや活動報告を勉強出来た有意義な二日間でした。

松山支部　橋本　智恵美

７月１３・１４日に東京で行われた、全国女性建築士連絡協議会【全建女】へ参加してきました。前回の、雪の降る中での京都大会とはうって変わり、真夏の東京での開催は終始暑さとの戦いでした。

『「地域と共生する居住環境づくり」～見直そう、これからの住環境と暮らし方～』をテーマに、「高齢者の居住環境」と「震災復興状況報告」の切り口で、全国の女性建築士の意見交換が行われました。自分と同じ女性の視点を通して、日本全国様々な場所の居住環境をめぐる課題等に触れることができ、とても刺激を受ける有意義な２日間となりました。

砥部地区　勉強会に参加して

松山支部　一之瀬　佳緒理

日時：平成２５年６月３０日（日）
●午前の部：『砥部焼伝統産業会館』と
　　『坂村真民記念館』の見学
■昼　　食：『村の駅 五本松』にて
　　砥部焼陶和会の方と食事会
■午後の部：『砥部焼観光センター　炎の里』にて
　　砥部焼体験

建築士会の活動もあまり知らないままに入会して一年ちょっと経ちました。懇親会には何度か参加したことはあったのですが、今回のように一日かけての勉強会は初めての参加でした。

中でも『坂村真民記念館』は以前から行ってみたかった所で、さらに陶芸体験ができるので楽しみにしていたのですが、それ以上に懇親会等で知り合えた方と再会することができ、良き交流の場となりました。

まず、『砥部焼伝統産業会館』にて松村館長様の案内のもと、砥部陶磁器の歴史に触れながら、作家さんの作品も拝見しました。その後『坂村真民記念館』では、坂村真民さんのご親族である西澤館長様からお話をいただき、「記念館や美術館など発注者と使用者が異なる場合は、実際に使用する当事者の話をよく聞いて設計してください」とのお言葉が今でも心に残っています。建築物に携わる者として、大小にかかわらず使い手の気持ちになって設計していくことが大切だと改めて感じました。

その後の昼食会では『村の駅 五本松』にて砥部焼陶和会の皆様とお食事をしながら交流を深め、運良くアトリエにもお邪魔させていただきました。そしていよいよ砥部焼体験です。ろくろを回すのは人生２回目。あの土の感触が忘れられず、もう一度体験してみたいという願いが叶いました。陶和会の方や炎の里の方のご指導のもと悪戦苦闘しながらもなんとか３作品完成することができました。ろくろ以外にも絵付や手びねり体験があり、参加された方はそれぞれ素敵な作品になったことと思います。そして最後に、陶和会の方も交えて『炎の里』前にて記念撮影をして解散となりました。

今回の勉強会を通じ一番感じたことは、人と人とのつながりの大切さでした。そして、建築の世界は奥深い分野なので、いつまでも好奇心を忘れず視野も広げながら、諸先輩方からいろいろと学び生涯勉強していきたいと思っています。

今回の作品は建築士会にて展示するそうですので、機会があれば皆さんの力作を見ていただけたらと思います。

村の駅　五本松

高さ 227 ㎝のジャンボ壷（砥部焼伝統産業会館）

手びねり体験中（砥部焼観光センター　炎の里）

ろくろ体験中（砥部焼観光センター　炎の里）

絵付け体験中（砥部焼観光センター　炎の里）

ろくろ体験中（砥部焼観光センター　炎の里）

坂村真民記念館

絵付け体験中（砥部焼観光センター　炎の里）

５階にて展示中（建築士会館）

砥部焼陶和会のみなさまと食事会（村の駅　五本松）

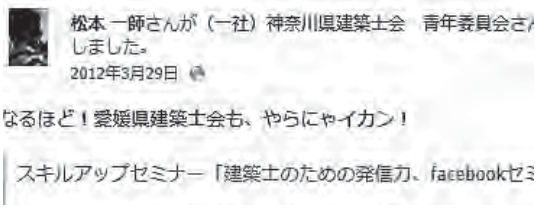
記念撮影（砥部焼観光センター　炎の里）

愛媛士会との交流

（一社）神奈川県建築士会　業務執行理事　兼　青年委員長　奈良　直史

はじめまして。神奈川県建築士会（以下:神奈川士会）で青年委員長を仰せつかっております奈良と申します。今回、愛媛県建築士会様（以下：愛媛士会）の松本一師さん（松山支部）からバトンならぬ、ミサイルが飛んで参りました。

このミサイルが遠路はるばる神奈川まで飛んできた経緯を知らない方の方が多いと思いますので、なれ初めと申しますか、経緯を書きながら進めさせていただきます。時は 2012 年 3 月 29 日。発端は私ども神奈川士会・青年委員会で 2012 年 4 月に「facebook を学ぶセミナー」の告知をさせて頂いた際、私どもの情報を愛媛士会・青年副委員長の松本さん（松山支部）、青陽孝昭さん（今治支部）にシェア（facebook 上に up されたリンクや画像付きの情報を「この情報、自分の知り合いにも広めたい（共有したい）！！」と思ったときに使用するもの）をしていただいて、そのお礼に私がコメントしたところからネット上での会話が始まったことによります。



▲すべてはここから始まった。

その日を境に facebook 上で幾度となくコメントのやり取りが重ねられ、それは現実の場面においての交流に発展するまで時間はかかりませんでした。2012 年 6 月ごろには青陽氏が東京に来られる際に初対面し赤坂でカレーを食べ、全国大会での再会を約束。

2012 年 10 月開催の全国大会（茨城大会）において行われた青年セッションでは、全国各ブロックの発表をテーマにしたテーブルディスカッションを実施。

我々関東甲信越ブロックでは開催ブロックとして、各テーブルのコーディネーターを依頼されたのですが、偶然にも中四国ブロック代表としてやってきた愛媛士会・青陽さん発表のテーブルに付かせて頂く事となり、ここで大塚さん（通称：大塚姉さん）らとお近づきさせて頂くことになりました。

大会終了後は「（仮称）夜の全国大会」と題し、東京・大阪・茨城・愛媛・滋賀・長野・千葉・神奈川の青年建築士らが集って盛り上がり、その時に神奈川士会の青年メンバーは強烈な愛媛勢の勢いを知ることになり、我々のメンバーの脳裏に“ 愛媛 ”を植え付けることになります。なお、我々神奈川士会・青年委員らが考える「愛媛」とは、いわゆる愛媛の青年兄弟（森川委員長をはじめ、松本氏、青陽氏）を指しますので、もし、正しい「愛媛」があるならばご教授賜りたく存じます。

話を戻しまして、その際、今年、2013 年 6 月に開催予定の中国四国ブロック大会（高知大会）のお誘いを受け、酔った勢いでお約束させて頂き、人生初の四国上陸を体験させていただくことになります。本来、高知大会ですので、羽田空港から高知竜馬空港へそのまま飛べばいいものを「松山の街並みを見せたるけん！」との松本さんの気合に負け、大会前日は松山空港に降り立ち、松山の夜の街並みを 5 軒散策。翌朝寝坊するぐらいの“ まちあるき ”攻勢に、愛媛人の男気を痛感させられました。後から聞けば、青陽さんは更に“ まちあるき ”を続けたとか。そのパワーには脱帽です。

四国大会当日は松山支部の手配したバスの故障に血が引く思いもございましたが、なんとか高知入りを果たし、県内各地の皆様、更には中四国ブロック各県の青年委員と合流させていただき、更に交流の輪を広めさせて頂くことになりました。

▲松山市内散策で“ まちあるき “ を続けた青陽氏

話はさらに続き、そこから 2 週間後、今度は愛媛代表（…とお伺いしておりますが、よろしいのでしょうか？）といたしまして、松本さん、青陽さんが私ども、関東甲信越ブロック大会・千葉大会へお越しいただく事になります。

▲開会式直前の愛媛代表（後方）

私は大会の主催者側でバタバタしており、当日の状況については私どものメンバーから写真をかき集めて報告をもらったのですが、どうやら愛媛代表のお二人が着席されていたのは開会式の時のみで、途中段階はおそらく、自県に持ち帰る話を一生懸命探されたのだと、前向きに解釈をしております。

大会懇親会では「けんちく体操（建築物を人間の体のみで体現し、建築を知り、体も動かせるもの）」に愛媛・神奈川ジョイントチームで参加。

結果は予選落ちでしたが、初対面でも意気投合できる事が素晴らしいことと思います。その後は愛媛・神奈川両県によるミニ交流会を開催し、最後は肩組でサライを合唱。

こうして松本氏が押した Facebook の「シェア」ボタン一つで、神奈川と愛媛の距離はネット上の空間では、とどまらない関係となり、そうした中で、お互いの会誌に寄稿し合う事もこの場で合意。松本さんより本会会誌「SALON」64 号に約 700 文字を寄稿いただいております。つまり、冒頭部分で触れました「愛媛から飛んできたミサイル」は神奈川から飛ばしたミサイルに対する応撃みたいなものでございます。

さて、少し真面目な話も。

愛媛の皆様から見て、私ども神奈川士会はどのようにお映りになるでしょうか？何となく、港・横浜、工業・川崎、夏の湘南地域というイメージが先行しますが、実は、山間部ではツキノワクマが出没するような土地柄であり、日本の縮図があるような特徴をもっております。

本会といたしましては、会員数が約 3000 人ちょっとという状況で、ピーク時は 4000 人いましたから長期低落傾向は全国的な傾向に並んでおりますが、しかし、登録されている建築士の数から考えれば会員数はもっと居ても良く、現在、神奈川士会では青年委員会を中心に会員拡大を推進しております。

その中で、愛媛士会より学び取ったのが「支部」における青年組織の強さであると考えます。神奈川士会には８つの地域支部を持っておりますが、その支部に青年組織はありません。愛媛士会との交流の中で、支部青年組織が機能し、大変活発に活動され、それぞれの支部に委

員長が存在し、地域に密着して活動されている事は大変うらやましく感じています。

さらには瀬戸内海の航路を上手に活用され、広島県の青年委員会などとの交流も盛んであり、この点については我々神奈川士会が愛媛士会に学ぶべき点として、青年委員会はおろか、理事会などでも報告させていただき、将来的な支部青年組織の設置を目標に掲げ、青年層の拡大とアクティブ層の育成を第一に掲げて活動しております。

従って、私たち神奈川士会の青年委員会は愛媛を目指していると言っても過言ではありません。その意味で、愛媛の青年建築士たちにはもっと、もっと頑張ってその名を轟かせて頂きたいと祈念いたします。

さて、愛媛士会の会誌に寄稿するにあたって、愛媛と神奈川の接点を考えるのはセオリーでありますが、例えば、横浜・山下公園は宇和島出身の山下汽船の創業者・山下亀三郎氏からの寄贈であったり、神奈川県内に建築学科を置く神奈川大学の創設者の米田吉盛氏は内子町出身であったりします。ちなみに明治初期、横浜のまちづくりの土台作りに奔走し、フェリス女学院の創設に尽力したのが高知出身の大江卓だったりするのですが、ちょっとインパクトに弱いかなぁと。

「何かもっとインパクト無いかな？」

そんな事を考えていたら、私、昨年、埼玉県羽生市で行われた「ゆるキャラグランプリ (R)」において「バリィさん」にお会いしている事を思い出しました。

私は神奈川県のど真ん中・厚木市に居住しており、同じ大会には厚木の街から「あゆコロちゃん」が出場しております。厚木には相模川が流れ、鮎がひとつのシンボリックな存在であり、この「あゆ」と、「食」を通じたまちづくり運動から始まり、B1 グランプリ (R) ゴール

ドグランプリを獲得した「厚木シロコロ・ホルモン (R)」の「コロ」を取ったネーミングです。建築士会とは別に私が、厚木シロコロホルモン探検隊に所属しているため、ゆるキャラサミット (R) で、厚木の「あゆコロちゃん」を応援するために埼玉県羽生市に足を運び、そこでバリィさんとご対面となった次第です。

今では「バリィさん」は全国的に有名になり、バリィさんのサクセスストーリーはビジネス書でも見かけるようになりました。厚木の「あゆコロちゃん」は 9 位でしたので、まだまだ足下にも及びませんが、今年はもう少し順位を上げるべく、お手伝いをさせていただく予定です。バリィさんは殿堂入りを果たして今年は投票対象から外れていると思いますので、厚木の「あゆコロちゃん」にも投票いただければと思います。

愛媛士会の皆様、神奈川県にお越しの際は港街・横浜以外にも楽しい街がいっぱいあります。その中から是非とも厚木をチョイスいただき、遊びにお越しいただければと思います。

本年は全国大会が中四国ブロックの島根で開催されます。愛媛の皆様にも神奈川士会のメンバーがお世話になろうかと思います。その節はまたよろしくお願い申し上げます。